

陸域観測技術衛星 2号「だいち 2号」(ALOS-2)の 飛行状況について

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)の地球指向モード(EPM)(※1)移行が、平成26年5月24日21時43分(日本時間)にスウェーデンのキルナ局で受信したテレメトリデータにより正常に行われたことを確認いたしました。

また、「だいち2号」のミッション機器の1つであるLバンド合成開口レーダ(PALSAR-2)(※2)のアンテナパッケージ展開を5月25日1時32分(日本時間)にチリのサンチャゴ局で確認いたしました。今後、2回に分けてPALSAR-2のアンテナ展開作業(第1翼展開作業および第2翼展開作業)を行う予定です。引き続き、展開作業を段階的に継続し、適時運用状況をお知らせいたします。(アンテナ展開シーケンスは、別紙【<http://fanfun.jaxa.jp/countdown/daichi2/files/sequence.pdf>】参照)

現在、衛星の状態は正常です。

(次回のお知らせ予定)

次回は、「だいち2号」のPALSAR-2アンテナ展開の運用状況(途中経過)について、5月25日 15時00分頃(日本時間)にお知らせする予定です。

「だいち2号」の運用に関する情報につきましては、上記以外についてもJAXAウェブサイト内「だいち2号特設サイト」にて随時ご覧いただけます。(本情報のWeb掲載は、本日の9時30分以降になります)【<http://fanfun.jaxa.jp/countdown/daichi2/index.html>】

(補足)

- ・(※1)地球指向モード:

地球指向モード(EPM: Earth Pointing Mode)は、スラスタ(ガスジェット)を用いて衛星の姿勢制御を行い、観測機器を地球方向に向けるモードです。

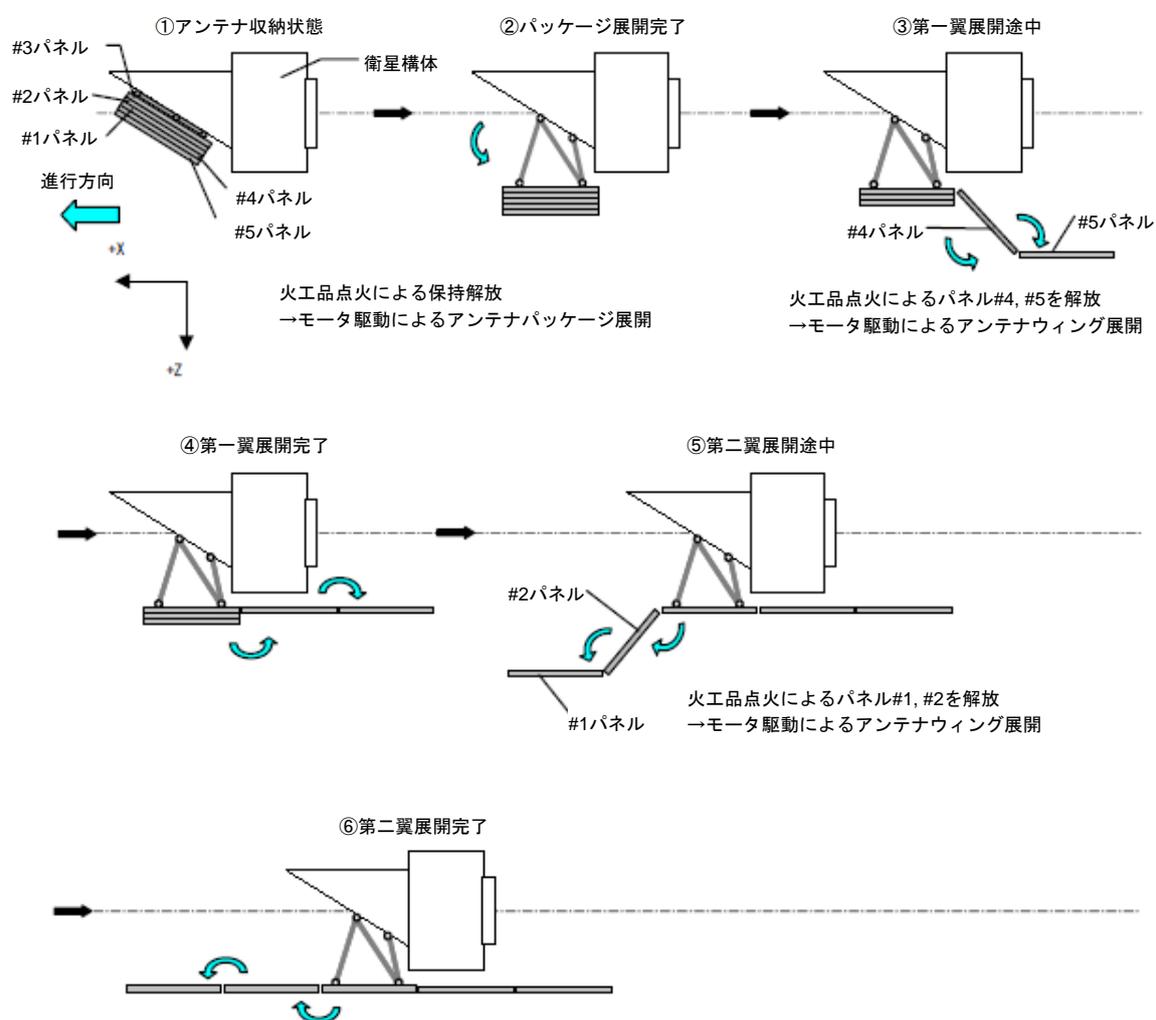
- ・(※2)Lバンド合成開口レーダ:

1.2GHz帯のマイクロ波Lバンドを利用した合成開口レーダ(PALSAR-2: Phased Array type L-band Synthetic Aperture Radar -2)(パルサーツー)は、天候や昼夜の影響を受けず観測可能なレーダです。10mの分解能を有する「だいち」に搭載されたPALSARから高性能化を図り、分解能1~3mのデータを得ることが可能です。また、右側しか観測できなかったPALSARに比べ、PALSAR-2では左右観測機能をもたせることで、観測可能範囲が3倍程度(870kmから2320km)に広がっています。

《Lバンド合成開口レーダ2アンテナ展開シーケンスイメージ図》

<PALSAR-2展開シーケンス>

アンテナ展開は、収納されたパネル全体を衛星構体から解放し展開するパッケージ展開、パネル4およびパネル5を展開する第1翼展開、パネル1およびパネル2を展開する第2翼展開の順で実施します。以下にSARアンテナ展開シーケンス概念図を示します。



SARアンテナ展開シーケンス概念図